

氏が2頭採集された。一応記録として報告しておき度い。標本は同氏の御好意で筆者が保管している。

イシガケチョウの思い出

松 本 健 嗣

1959年9月26日名古屋を中心に甚大な被害をもたらした伊勢湾台風、阪神地方でもかなりの風雨であったがその翌々日28日秋晴れの日豪雨で荒れた山径を辿って摩耶山へ登った。山上の展望台広場を占拠しているツマグロヒョウモンを採集して、ふとロープウェイ駅の上空を見上げるとゴマダラチョウ春型を一廻り小さくしたような白っぽいタテハチョウが威勢よく飛び廻っている。粉れもなくイシガケチョウであった。その後10月3日今度は和泉山脈岩湧山へ行った。南麓の根古谷を進んでゆくと此処でもイシガケチョウが4・5頭杉木立の上を活発に競飛していた。だが先日と同様たゞ啞然と見上げるばかりであった。神戸摩耶山では1966年6月30日にふたゝびこの蝶を見ている。

以上が私のイシガケチョウ採集失敗記録であり、他に近畿中北部では見たことはない。その当時私はガイドブック等を読んで本種(Cyrestis thyodamas)はクロコノマチョウと共に近畿中部でも稀ではないものと思っていた。だがその後はクロコノマ程採集例を聞かない。大阪の知人の話では和泉山脈方面でも1960年代に入ってからサッパリ見られなくなったと云う。神戸での本種の採集例として手許にある文献では京阪神の動物(東 正雄 六月社)には1961年7月23日六甲山、1948年摩耶山での記録が載っている。また1938年の昆虫界には1936年須磨一ノ谷で2頭とれたことが記されている(横山光夫)。

アオスジアゲハ冬至に屋外で羽化

松 本 健 嗣

昨年(1982)の立冬以後はたいへん暖く、一向に冬らしくない陽気が続いたが12月22日冬至の日正午過ぎ神戸市中央区国鉄元町駅南側の街路クスの根元で横倒しになりかすかに翅を震わせているアオスジアゲハを拾った。ストーブのそばに置いたところ、やがて翅を半開するに至ったが付属肢を動かす迄には至らなかった。正常の春型で翅は完全に伸長していた。